

岐阜県の取組み

○ 動物愛護教室

動物愛護思想及び動物の適正飼養の普及啓発を図るには、次代を担う子供たちに対する教育が不可欠であることから「動物の愛護及び管理に関する法律」及び「岐阜県動物の愛護及び管理に関する条例（所有者等の義務及び遵守事項）」に基づき、主に小学生を対象として動物についての理解、生命を慈しむ心の育成、動物愛護意識の高揚及び動物による危害の防止を目的とした動物愛護教室を開催する。令和5年度は、各保健所で13回実施した。

動物愛護教室開催状況

回数等／年度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
開催回数	21	6	11	11	13
受講人数	2,504	440	1,392	1,145	1,164

岐阜保健所（羽島市立正木小学校）

- 実施方法及び内容（講師：保健環境研究所、保健所、動物愛護推進員）
 - ・保健所の動物愛護管理業務及び動物の適正飼養についてパワーポイント資料を用いて説明を実施
 - ・犬のしつけの実演を実施
 - ・動物クイズを実施
- 保健所担当者の所感
 - ・講習について、児童から質問があり、熱心に聞いている様子が見られた。
 - ・ゴールデンレトリバー1頭を児童が取り囲み触れ合う場面があり、大半の児童が大変興味を持っている様子が見られた。
 - ・感受性の強い子供の時に動物愛護の精神を説明することで、より強く印象に残すことができ、啓発を行うことができた。

可茂保健所（美濃加茂市立下米田小学校、蜂屋小学校、太田小学校、古井小学校、山手小学校、加茂野小学校、山之上小学校）

- 実施方法及び内容（講師：農業生産法人、市教育委員会、岐阜大学、保健所）
 - ・岐阜大学生によるヤギについてのクイズ
 - ・ヤギを用いたふれあい
 - ・ヤギの生態やふれあい時の注意事項、ヤギによる除草について講義
 - ・心音機を用いた、ヤギと自分の心音比べ
 - ・動物の適正飼養に関する説明
- 保健所担当者の所感
 - ・ヤギと児童自身の心音を聞き比べることで、ヤギも人も同じ「いのち」であることを実感してもらえた。
 - ・中庭を柵で区切って解放することで自由にヤギとふれあうことが出来た。

恵那保健所（恵那市立山岡中学校）

- 実施方法及び内容（講師：保健所）
 - ・保健所の動物管理業務について説明
 - ・管内にある食鳥処理場の写真を交えながら、普段から当たり前前に食べている肉はもともと生きている動物の命であることを説明
- 保健所担当者の所感
 - ・保健所の業務が多岐に渡っていることが理解され、併せて、普段食べている食肉が、子供たちの手元に届くまでの過程を知ることで、そこに関わる人達や、動物の命に感謝の気持ちを持つことが出来

た様子で、アプローチの方法として、愛護動物、畜産動物、野生動物の違いはあるが、それぞれの持つ命の大切さが理解できた内容となった。

飛騨保健所（高山市立花里小学校）

● 実施方法及び内容（講師：保健所）

- ・「ペットにとってのしあわせってなあに？生きてるってどういうこと～捨てられた犬猫のお話～」と題して、どうしてペットを飼うのか、保健所の仕事について、狂犬病について等を講義
- ・昨年度、県内の保健所に入った猫の数、譲渡数等を講義
- 保健所担当者の所感
 - ・保健所で犬猫の処分をすることがあるということは、児童の間でもよく知られているようであった。
 - ・殺処分機の写真などもあり、ショックを受ける児童がいないか少し懸念があったが、児童が動揺している様子はみられなかった。

○ 動物愛護推進員活動支援事業

県が推進員活動の環境を整備し、その活動を支援することにより、県民に対する動物の愛護及び適正飼養等の普及啓発を図る目的で、各保健所及びセンター管内の推進員活動の支援を実施した。

岐阜保健所

支援内容 愛護推進員が行う笠松刑務所の受刑者を対象とした犬やインコを用いたふれあい体験や命の大切さに関する講話を実施

揖斐センター

支援内容 愛護推進員に対し、野良猫への餌やりに関する普及啓発、県の方針を説明

可茂保健所

支援内容 愛護推進員が行う犬猫譲渡会における動物愛護の啓発活動支援

東濃保健所

支援内容 愛護推進員が行う猫の保護、TNR活動支援

恵那保健所

支援内容 愛護推進員が行う多頭飼育崩壊によって飼育困難となった猫の不妊手術の支援

○ 譲渡ボランティア登録

県内の保健所等は、ボランティアの協力を得て収容動物の譲渡を行っている。県生活衛生課で一元的にボランティアを登録し、広くボランティア登録者に譲渡対象動物の情報を提供している。また、令和4年度から登録ボランティア同士の連携の強化を目的に、ボランティア間の情報交換会を県が主催している。

登録者 73人（令和6年10月1日時点）

○ 岐阜県被災動物救援ボランティアリーダーの育成

災害時に動物救護活動を円滑に行うためには、ボランティアや動物愛護団体の協力が不可欠であり、個々のボランティア等の力を十分に発揮するためには防災知識及び動物愛護に関する知識を有するリーダーが必要となる。このため、災害時にリーダーとして活動する岐阜県被災動物救援ボランティアリーダーを養成し、登録している。（任期2年）

令和5年度は登録者への講習を行った。

岐阜県被災動物救援ボランティアリーダーとは

1 活動内容

(1) 平常時

- ・ペットの災害対策に関する飼い主等への普及啓発

(2) 災害時

- ・動物救護ボランティアの受付
- ・避難所や動物収容施設等へのボランティア派遣の割り振り
- ・避難所や動物収容施設等での飼養相談受付、飼養管理方法の指導及び技術支援
- ・その他、岐阜県被災動物救援本部が必要と認めたもの

2 登録資格

18歳以上かつ、岐阜県が実施する被災動物救援ボランティアリーダー養成講習会を3回受講した者

講習会開催状況

○令和5年度（登録者への講習）

	演題	内容	講師	参加者数
第1回	ペット版避難所運営ゲーム（HUG）難易度＝ふつう	図上訓練により避難所運営について学ぶ	岐阜県動物愛護センター職員	8

地域別被災動物救援ボランティアリーダー登録者数

地域	岐阜	西濃	中農	東濃	飛騨	合計
登録者数	13	3	17	4	7	44

（令和6年10月1日時点）

○ 東濃圏域の地域猫不妊去勢手術委託

地域猫活動の重要な部分である不妊去勢手術を動物愛護センター（美濃市）で実施しており、動物愛護センターの手術室、術後の猫を観察するための場所、手術者に限りがあるため、1日あたり実施できる手術頭数に制限がある。

飼い主のいない猫に不妊去勢手術を受けさせる場合は、動物愛護センターへ搬送する必要があるため、東濃地域の自治体等から手術のために猫を搬入する際の移動距離が負担となるため、東濃地域（東濃保健所・恵那保健所管内）の動物病院に地域猫として管理する猫の不妊去勢手術を委託している。

○ 子猫のミルクボランティアの育成

県内の保健所で収容した猫のうちその多くは離乳前の子猫が占めている。

岐阜県動物愛護推進計画の家庭で飼養できる犬猫の殺処分50%削減を継続的に達成するためには、離乳前の子猫の譲渡を推進する必要があるため、離乳前の子猫を譲渡可能な大きさまで育てるミルクボランティアの育成を行う。

ミルクボランティア登録者数

登録者 68人 (令和6年10月1日時点)

預託頭数

	R 4	R 5	合計
預託頭数	42	119	161